

地域福祉の充実をめざして、
支える心のネットワーク！



Fukushi
CHIBA



赤い羽根共同募金

福祉 ちば

No.200

2024.2 February

千葉県ボランティア・市民活動センター機関紙

エールちば

NPO法人
いちかわ市民文化
ネットワーク



障害のある人もない人も子どもも大人もいっしょに創る・楽しむ
「チャレンジド・ミュージカル」

Field Study ♥ 地域の福祉活動
フィールドスタディ

〔東金市〕嶺南地区社会福祉協議会

「地域福祉フォーラム」の制度を活用して
多様な立場の人たちが集まる「健康フェスタ」を開催

県社協ニュース

- 寄付者、賛助会員のご紹介
- 教育支援資金のご紹介

『チャレンジ・ミュージカル』

障害のある人もない人も子どもも大人もいっしょに創る・楽しむ

NPO法人いちかわ市民文化ネットワーク



障害のある人もない人も、子どもから大人まで、地域みんながいっしょに創る「チャレンジ・ミュージカル」の活動。2005年に市川市でスタートし、今年3月には第14回目の公演が開催されました。たくさんの拍手を浴びることで、障害のある子どもたちは達成感を得られ、大きく成長しています。

小学3年生から70代まで 三世代70人が演じる舞台

昨年12月、「チャレンジ・ミュージカル」の稽古現場を訪れました。稽古は10月から本番直前までの約半年間、休日に市川市内で行われます。参加者のうち約半数は市川市外の住民で、県内各地から参加しています。

3月の公演に向け、稽古にも熱が入ります。今回、舞台に立つのは小学3年生から70代までの約70名。台本を片手に大きな声で台詞の練習をしたり、音楽に合わせてクルクル回ったり、一生懸命に身体を動かしていました。70人が楽しく歌ったり踊ったりする姿はとてもエネルギーで、元気をもらえます。

市民が交流しながら 文化芸術を推進する団体

「チャレンジ・ミュージカル」を主宰するのは、市川市在住の吉原廣さんです。新劇の演出家を務めていましたが、20数年前、知り合いから「市民ミュージカルをつくりたい」という依頼

を受けました。知り合いの子には障害があり、子どもが出られるミュージカルを、という依頼でした。吉原さんは快諾して取り組んだところ、300人以上の市民が参加し、満員の観客を集めました。この成功を受けて、市民が交流しながら文化芸術を推進していくための団体を立ち上げ、2004年に法人化。NPO法人いちかわ市民文化ネットワーク（以下、いちぶんネット）が誕生し、吉原さんが代表に就きました。



「チャレンジ・ミュージカル」主宰 吉原 廣さん



周囲がフォローすることで 一人ひとりに見せ場をつくる

2005年には障害児やその家族から「私たちもミュージカルを演じたい」という強い要望が寄せられ、いちぶんネットの事業として取り組むことになりました。とはいっても吉原さんたちスタッフには、障害者と関わった経験がありません。セリフが言えない子どもが多かったので、最初は身体を使って遊ぶことから始め、次第に歌とダンスの練習を積み重ねていきました。

吉原さんは、出演者一人ひとりに見せ場をつくれます。「障害のある人には、周囲の人がフォローすればいい」と考え、話すことが難しい出演者には「影武者」を用意し、影武者がセリフを言うなど、工夫を凝らしています。

拍手を浴びる経験が自己肯定感を高める

「障害のある子が舞台に立ち、最後に緞帳が下りてたくさんの拍手を浴びることで大きな達成感を得られます。その経験を重ねることで自信が湧いて、自己肯定感が高まるのです」と吉原さん。これまでできなかったことが、少しずつできるようになり、キャストとしての技量もレベルアップしていくそうです。

また、この活動は家族の協力なしには成り立ちません。家族も劇団の一員として、子どもといっしょに舞台に上がってキャストとして活動する人、事務仕事や舞台の裏方スタッフとして支える人など、それぞれが役割をもっています。子どもにとってもその家族にとっても、仲間とつながる交流の機会であり、楽しい居場所になっているのです。



面白いことは人を、街を元気にする！

いちぶんネットの活動は「チャレンジ・ミュージカル」だけではありません。「チャレンジ・ミュージカル」の参加者から「中高生の放課後の居場所がない」という声が上がったことから、放課後等デイサービス「ハクナマタタ」を立ち上げました。「ハクナマタタ」とはスワヒリ語で「大丈夫だよ」といった意味が込められています。今では多くの児童や学生が利用しています。また、稽古場兼交流の場として立ち上げた拠点「スペースにわにわ」では、アマチュア劇団が稽古をしたり、マルシェを開催するなどのにぎわいを見せています。

吉原さんは、面白い活動が面白いまちづくりにつながるという信念をもって市民の芸術文化活動を牽引してきました。今後は、「ミュージカルの街 ICHIKAWA」というキャッチフレーズを掲げ、パレードを開催するなどして街をもっと盛り上げていきたいと話します。

今年3月で14回目を迎えた「チャレンジ・ミュージカル」。障害のある人もない人も、子どもから大人まで楽しめる活動が、ひいては人や街を元気にしていきます。

参加者の声

鶴岡宏隆さんと 母親の牧子さん



息子は2006年からずっと参加しています。言葉が話せないうえに身体も不自由なのですが、舞台上で輝ける場面を必ず作ってくださいますし、本人も楽しそうに取り組んでいます。私も俳優として舞台に立っているのですが、親子が同じ目標に向かって作り上げていく素晴らしい体験は、この活動でしか味わうことができないと感謝しています。

外山藍子さんと 母親の由紀子さん



人前では緊張して話すことができなかった娘が、舞台上でセリフを言うことができるようになりました。当初は考えられないことでしたが、温かいみなさんのおかげで成長できたのだと思います。本人は「友だちがたくさんできたことがうれしい」と話しますが、私もお母さんたちと知り合っておしゃべりできる場ができたことを喜んでいきます。

スタッフの声

名倉ゆみこさん

脚本・作詞・共同演出 いちかわ市民文化ネットワーク副代表理事



今回、脚本を担当しました。UFOが不時着して、言葉の通じない宇宙人と地球人が出会うお話で、言葉の壁に苦しんでいる外国籍の少女も出てきます。見どころは「言葉を介さなくても、心は通じる」というシーン。障害のあるみなさんが伸びやかな身体の動きで表現します。この劇団の取り組みが、地域共生社会の実現につながればという思いで活動しています。

「チャレンジ・ミュージカル」に関する情報はこちら

いちぶんネットホームページ

<https://www.ichibun.net/>



拠点「スペースにわにわ」でマルシェを開催。賑わいを見せています。



放課後等デイサービス「ハクナマタタ」で活動する子どもたち



「地域福祉フォーラム」の制度を活用して 多様な立場の人たちが集まる「健康フェスタ」を開催

東金市の嶺南地区社会福祉協議会（以下、嶺南地区社協）は、平成30年度から令和4年度にかけて「地域福祉フォーラム」に取り組み、180人以上の地域住民を集めて「健康フェスタ」を開催。地域住民はもちろん、特別支援学校の生徒や地元大学の学生、スポーツチームなど、年齢層から立場まで様々な人々が集う場を作り上げました。

様々な団体が参加して 地域づくりについて話し合う場

嶺南地区社協が管轄するエリアは4区（北之幸谷、堀上、川場、押堀）で構成されており、それぞれの区でボランティアグループが活発に活動しています。その4区を代表する4人の副会長が、中田成気会長とともに福祉活動を牽引する体制を敷いています。

平成30年、東金市社会福祉協議会から「地域福祉フォーラムに取り組んでみませんか」と声がかかり、役員間で話し合って実施することを決めました。

地域福祉フォーラムとは、千葉県社会福祉協議会が県の補助金をもとに実

施している、千葉県独自の地域福祉を推進するための施策です。地域福祉に関係するさまざまな分野の団体や個人が参加・協働して地域づくりのあり方・取り組み方を考えていく場（話し合いの場、協議の場）のことを指し、そこで話し合った内容をもとに、それぞれの地区で地域福祉推進のための様々な活動が広がったり新しく生まれたりしています。「地域福祉フォーラム事業を実施すると60万円の助成金を受けることができるため、それを活用して何か新しいことにチャレンジできると考えました」と、実施に至ったきっかけについて中田会長は振り返ります。

健康長寿を目指して 「健康フェスタ」を企画

フォーラムには、4区の区長、ボランティアグループ、民生委員・児童委員、食生活改善会（食を通じた健康づくりのボランティア）、長寿会、子ども会の代表などの地区社協役員だけでなく、さらに呼びかけを行うことで小・中学校のPTA、中学校の教頭先生、市のスポーツ協会などにも参加してもらいました。

さまざまな立場の人が協議を重ねるなかで「人生百年時代、健康長寿を目指す」というテーマを掲げ、そのテーマに沿ったイベントとして「健康フェスタ」の開催が決まりました。そして、パラスポーツ「ボッチャ」等の体験や認知症予防の講座、健康講座などのプログラムを企画しました。



認知症予防の講座（認知症予防体操）



中央が会長の中田成気さん、左から副会長の吉岡智三さん、浅野晃一さん、佐久間良雄さん、清水義雄さん

様々な立場の人たちが プログラムを通じて交流

令和元年に第一回の「健康フェスタ」を開催したところ、幼児から高齢者まで180人余りの住民の参加がありました。コロナ禍による中止期間を挟んで令和4年と5年にも開催し、同程度の数の参加者が集まりました。

このイベントの特徴は、多様な立場の人が参加していることです。ボッチャの実施にあたっては、地区内にある特別支援学校の先生と生徒が講師や審判役を務めました。「障害のある生徒さんたちにとって、自信を得られる機会になったという話を先生方から聞きました」と副会長の浅野晃一さんは話します。

さらに、城西国際大学の看護学部の学生が、地域づくりや地域貢献を学ぶ実習の一環として参加。準備や後片付けをサポートしました。

協力してくれたのは地域の方たちだけではありません。「車いすバスケットボールの体験では県内で活躍しているクラブチーム『千葉ホークス』の選手の方々に講師に招き、小学生と高齢者がいっしょにプレーして楽しむことができました」（副会長の吉岡智三さん）



特別支援学校の生徒によるボッチャの測定

一方で、副会長の佐久間良雄さんは、会場となった東金アリーナなどの地域資源をうまく活用できたことも成果のひとつにあげており「市民でもなかなか入ることのないアリーナに入れる貴重な機会でもあるので、今後はさらに多くの方に参加してほしい」といいます。

なお、地域福祉フォーラムの助成期間は令和4年度をもって終了したため、今年度からは地区振興協議会の協力を受けて開催しています。



「千葉ホークス」の選手と車いすバスケットボール体験

支えあい活動や世代間交流など 幅広く地域福祉活動を展開

このほか、嶺南地区社協は、高齢者のちょっとした困りごとを住民ボランティアが助ける支えあい活動を、市内の地区社協の中でいち早く立ち上げました。「れいなんスマイル・サポート生活支援隊」と銘打って活動しています。気兼ねなく頼めるように1時間500円の有償制としており、一人暮らしの高齢者などに喜ばれているといいます。

また「園児と長寿者のふれあい広場」

という世代間交流の事業も定期的に実施しています。「幼稚園の先生方の多大な協力があったからこそですが、園児と高齢者がプレゼント交換をしたりするなかで、たくさんの笑顔に出会うことができます」と、事業を担当している副会長の清水義雄さんは説明します。

嶺南地区社協のこれからについて、中田会長に伺いました。「健康フェスタ」は、さらに参加者を増やす努力をしながら、今後も継続していきます。また4区がそれぞれ切磋琢磨しながらも、つながりが強く、チームワークが良いという私たちの強みを活かしながら、今後も地域福祉活動を推進していきます。

役員皆が熱い思いを持ち、精力的に活動を続けている嶺南地区社協の取り組みは、さらなる地域の活性化につながっていくことでしょう。



れいなんスマイル・サポート生活支援隊

東金市社会福祉協議会 TEL 0475-52-5198

福祉バザーを通して地域がつながる

東金市社会福祉協議会は昭和60年から、地区社協活動やボランティア活動の財源確保のために、毎年、福祉バザーを開催する事業に取り組んできました。市内12地区社協がそれぞれ地域のみなさんに呼びかけて品物を集め、値札をつけて、会場に搬入します。当日も地区社協の役員やボランティアが販売業務などを担います。

6月に開催される恒例行事として市民に広く知られており、毎年600～800人もの人たちが来場する人気ぶりで、当日は朝早くから行列ができるほどです。さらに毎年200万円以上の売り上げがあり、12地区社協には販売した品数に応じて配分し、活動資金として活用してもらっています。

福祉バザーは、地区社協の役員をはじめ、区長、民生委員、ボランティアなど、さまざまな人が協力しあい、つながる機会となっています。また、市内の商店や企業が商品や自社製品を提供してくれるケースもあり、地区社協と企業がつながる効果も生まれています。

コロナ禍の間は中止していましたが、今年度は4年ぶりに復活し、再び多くの市民で賑わいました。これからも12の地区社協と市社協が連携して、福祉バザーの事業を長く継続していくことを目指しています。



東金市社協のみなさん

令和5年度 歳末たすけあい募金 ご協力ありがとうございました

令和5年度歳末たすけあい募金運動にご協力いただき、ありがとうございます。

この運動は、生活困窮者や高齢者、障がい者、子どもなど、福祉サービスを必要とする方が、安心して暮らすことができる福祉のまちづくりの為に、皆さまの幅広い理解と参加を図る運動です。

市町村歳末たすけあい募金は、援助や支援を必要とする人たちが地域で安心して暮らすために、NHK歳末たすけあい募金は県内の社会福祉施設利用者や児童養護施設出身者(ケアリーバー)の方の支援に役立てられます。

募金にご協力いただいた皆さま、募金活動にご支援いただいた皆さまに、厚く御礼申し上げます。

市町村歳末たすけあい募金

地域ふれあいお弁当配食
【習志野市】避難所をテーマとした講座
【鋸南町】

令和5年度 千葉県の募金額

1億8,421万4,788円

内訳 市町村歳末たすけあい募金 … 1億6,452万2,601円
NHK歳末たすけあい募金 … 1,969万2,187円
(令和6年1月末日現在)

NHK歳末たすけあい募金

特別養護老人ホームのストレッチャーの購入
【佐倉市】

千葉県共同募金会 トピックス

1. 県内スポーツチームとのコラボレーション

千葉県共同募金会では、昨年に続き県内のスポーツチームのご協力をいただき赤い羽根共同募金運動を行ってまいりました。試合会場での募金活動では、募金にご協力いただいた皆さまにオリジナルコラボグッズを進呈いたしました。

赤い羽根啓発ポスター



2. 「赤い羽根チャリティーオークション」開催!

令和2年度から開催している「赤い羽根チャリティーオークション」。

今年度もジェフユナイテッド市原・千葉、パルドラール浦安の選手の皆さまにご協力をいただきました。

- ジェフユナイテッド市原・千葉
全28品 落札総額 546,002円
- パルドラール浦安
全7品 落札総額 57,200円

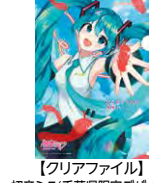
手数料を除く全額が赤い羽根共同募金として寄付されます。ご参加いただきありがとうございました。



3. 赤い羽根コラボレーショングッズのご紹介

赤い羽根共同募金では様々な企業様にご協力をいただき、オリジナルコラボレーショングッズを展開しております。

グッズは一定額以上の募金をいただいた皆様に進呈しております。当会HPからもお申込みを受け付けております。詳しくはホームページの「グッズ募金ページ」(<https://akaihane-chiba.jp/publics/index/107/>)をご覧ください。

【クオカード】
千葉県共同募金会マスコット
キャラクター「びわびよ」【クリアファイル】
初音ミク(千葉県限定デザイン)【ピンバッジ】
千葉ジェッツふなばし
マスコットキャラクター「ジャンボくん」

社会福祉法人 千葉県共同募金会

〒260-0026
千葉県千葉市中央区千葉港4-5
県社会福祉センター4F
TEL:043-245-1721 FAX:043-242-3338

<https://akaihane-chiba.jp/>

赤い羽根 ちば

千葉県共同募金会
マスコットキャラクター「びわびよ」

ご寄附に感謝申し上げます

本会及び各種基金に対して寄附・寄贈をいただきました。温かいお気持ちに感謝申し上げます。
(令和5年1月～12月)

<一般寄附>

一般社団法人日本鳩レース協会 千翔会
KDDI株式会社 南関東総支社
※特に災害支援のためとして受領

一般社団法人 千葉県流通商防犯協力会
兵庫県社会福祉協議会
一般社団法人 生命保険協会 千葉県協会

<千葉県地域ぐるみ福祉振興基金>
公益社団法人 生命保険ファイナンシャルアドバイザー協会 千葉県協会
京葉園友会ハイキングくらぶ
株式会社マルエツ
東京東信用金庫
チャリティボウル実行委員会(千葉県ボウラズ連盟)

<交通遺児援護基金>

小林 広法(個人)
匿名(個人1名)
千葉県交通安全対策推進委員会
旧MS千葉埼玉株式会社(現 三井住友海上エージェンシー・サービス株式会社 千葉支店)
公益社団法人千葉県LPガス協会青年委員会
公益財団法人千葉日報福祉事業団
公益財団法人千葉県交通安全協会
一般財団法人関東陸運振興センター
千葉県中古自動車販売協会、千葉県中古自動車販売商工組合
日蓮宗千葉県北部青年会

<児童養護施設退所児童奨学金>

株式会社千葉銀行 芝工業株式会社
佐伯 浩 赤星工業株式会社
飯田 智美 伊藤 幸夫
株式会社京葉銀行 株式会社大幹
上松工業株式会社 千葉センコー運輸整備株式会社
株式会社新昭和 秋葉 幸男
株式会社千葉興業銀行 株式会社京和建設
倉島 秀明 南総通運株式会社
松永 壮 株式会社トランスウェブ
串山 慈章 田村 純
一般財団法人ARIGATO 川真田 聖一
岡本 信広 阿部 達
京葉ガス情報システム株式会社 匿名(個人14名、企業2社)
協友工業株式会社
新日本建設株式会社 (順不同、敬称略)

令和5年度 賛助会員(個人・企業・団体)のご紹介

千葉県社会福祉協議会の活動にご賛同いただき、賛助会員として地域福祉を財政面で支えていただいている個人・企業・団体の皆様です。多大なるご支援に感謝申し上げます。
(令和6年1月末現在)

株式会社千葉銀行
株式会社京葉銀行
株式会社千葉興業銀行
キッコーマン株式会社
京成トラベルサービス株式会社
千葉みらい農業協同組合
日本製鉄株式会社 東日本製鉄所君津地区
JFEスチール株式会社 東日本製鉄所千葉地区
公益財団法人ちば県民保健予防財団
TKC千葉社会福祉法人経営研究会
三陽メディア株式会社
株式会社文化堂
千葉県道路公社
千葉県信用保証協会
山喜興業株式会社
グローバル・チース株式会社
三水精工株式会社
東邦建設株式会社
株式会社千葉ステーションビル
株式会社エイジス
株式会社群鶴工務店
三栄メンテナンス株式会社
株式会社幕張メッセ
株式会社コスモロード
株式会社コスモ工業

サンエス警備保障株式会社
株式会社石川商会
淑徳大学
ブレインズ
株式会社赤門
株式会社上野工業所
京葉エステート株式会社
有限会社Pig Fertilize 松ヶ谷
株式会社ナリタヤ
株式会社鶴商メンテナンス工業
株式会社コスモバス
株式会社太陽堂印刷所
鎌ヶ谷巧業株式会社
山十道路株式会社
株式会社ケンコー
株式会社カクタ
株式会社優和住宅
株式会社神原
株式会社めいとケア
株式会社シルバーとつぷ
新千葉建設株式会社
トヨーウレタン株式会社
サンワ物流システム株式会社
株式会社東洋コーポレーション
田村 哲子(個人)

株式会社ワークス
アルフォーインターナショナル株式会社
日本データマテリアル株式会社
株式会社スズキ技研
株式会社関東三貴
株式会社石井興業
株式会社三建
有限会社常陽機設
株式会社タハラ
株式会社富澤商店
株式会社リンクス・ビルド
株式会社小出ロール鐵工所
株式会社かまどり住宅
石井文雄税理士事務所
東洋羽毛北関東販売株式会社
株式会社トーホー
株式会社ユニオンテック
株式会社ディアナ
株式会社オリンピックアオート
シンコー株式会社
株式会社Eプラン
株式会社北総フォレスト
有限会社伊藤養豚
株式会社DSS
株式会社スタッフ

検見川リフォーム工業株式会社
株式会社市進ホールディングス
有限会社妻本商店
千葉トヨタ自動車株式会社
有限会社セーフ住設
京葉事務器株式会社
千葉愛の教会
株式会社関東共同土建
株式会社藤嘉
アツマホールディングス株式会社
株式会社まひまひプラス
株式会社トミオ
一般社団法人環境対策災害支援協会
山口 智明(個人)
協友工業株式会社
株式会社SETTE
大栄技工株式会社
株式会社スペースケア
株式会社一建ホーム
株式会社小沢工務店
株式会社レオ・コーポレーション
武藤 博文(個人)
東日本資源リサイクル株式会社
その他(9企業)
(順不同、敬称略)

教育支援資金のご紹介

<教育支援費>(修学するのに必要な経費)

学校教育法に規定される次の学校(全日制・定時制・通信制の各課程)、貸付上限額等

対象となる学校	貸付上限額
高等学校(中等教育学校後期課程、特別支援学校高等部、専修学校高等課程含む)	月額35,000円
短期大学(専門職短期大学含む)	月額60,000円
専修学校専門課程	
高等専門学校	月額65,000円
大学(専門職大学含む)	

返済期間 原則10年以内

対象経費 授業料、施設整備費、実験実習費、教科書・参考書等の学用品購入費、部活動費、修学旅行の積立金、通学費、アパート代、入寮する場合の寮費、その他修学するのに必要と認められる経費

<就学支援費>(高等学校、大学、短期大学、専修学校、高等専門学校への入学に際し必要な経費)

貸付上限額 50万円(共通) 返済期間 原則10年以内

対象経費 入学金、教科書、参考書、制服、体操着、くつ、通学用自転車、アパートの契約費用等入学に際して必要となる経費

ご相談 お申込み ・他制度が優先となります。 ・高等学校のサポート校の経費については対象となりません。
・詳細はお住まいの市町村社会福祉協議会までお問い合わせください。 ※千葉市は各区での対応となります。

「福祉ちば」は200号目を迎えました

本会広報紙「福祉ちば」は、昭和55年5月1日に創刊してから、本号をもって通算200号目を迎えました。

創刊以来、市町村社協やボランティア団体など、県内において積極的に活動している団体や、その時々におけるトピックを紹介できるように努めています。

記事のテーマや内容については、本会の各部局からメンバーを集めて編集委員会を開き、意見を出し合って決めています。また、ページの作成も分担して行っています。

今後とも、本紙へのご支援をよろしくお願いいたします。



令和5年度福祉ちば編集委員会のメンバー



S55.5.1発行 創刊号



S63.7.25発行 50号



H8.10.30発行 100号



H22.11.15発行 150号

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

令和5年度

ボランティア活動保険

商品パンフレットは
こちらから
(ふくしの保険ホームページ)



保険金額・年間保険料（1名あたり）

団体割引20%適用済／過去の損害率による割増適用

保険金の種類		基本プラン	天災・地震補償プラン	特定感染症重点プラン
ケガの補償	死亡保険金	1,040万円		
	後遺障害保険金	1,040万円(限度額)		
	入院保険金日額	6,500円		
	手術	入院中の手術	65,000円	
	保険金	外来の手術	32,500円	
	通院保険金日額	4,000円		
	特定感染症	補償開始日から10日以内は補償対象外 ^(*)		初日から補償
賠償責任	地震・噴火・津波による死傷	×	○	○
	賠償責任保険金 (対人・対物共通)	5億円(限度額)		
年間保険料		350円	500円	550円

*3月末までに契約手続きが完了し、前年度から継続して契約される場合は初日から補償します。

<重要>

- ◆基本プランでは地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。
- ◆特定感染症重点プランでは中途加入の場合でも補償開始日より特定感染症が補償対象となります。
- ◆年度途中でご加入される場合も上記の保険料となります。
- ◆中途脱退による保険料の返金はありません。
- ◆途中でボランティアの入替や、ご加入プランの変更はできません。
- ◆ご加入は、お1人につきいずれかのプラン1口のみとなります。



ボランティア行事用保険

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償

(傷害保険)

福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

●このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事 保険会社〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課

TEL:03(3349)5137

受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F

TEL:03(3581)4667

受付時間: 平日の9:30~17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)

(SJ22-12223より抜粋して作成)